

## 森岡清美「インタビューのコツ」

- (1) 面接相手の選択を誤らないこと——質問しようとする問題をもっともよく知っている人を、主要な面接相手としなければならない。あまり知らない人からきいた中途半端な情報は、使いものにならないだけでなく、判断を狂わせることがある。
- (2) 面接相手は一人に限定しないこと——もっともよく知っている人は一人だけかもしれない。しかし、その場合でも、他の人びとにも面接して、一番よく知っている人の主観的な偏向を修正する必要がある。人がもつ「客観的」知識はその人の主観をとおして成立しているからである。
- (3) 質問すべき問題点を整理して面接に臨むこと——漠然ときいたのでは資料として使えない。問題点を明らかにし、それを細かく砕いて、具体的なキメの細かい質問ができるようにしておかないと、たくさんきいたけれども、帯に短し、たすきに長し、ということになる。また、相手が能弁家であれば、たちまち相手のペースに乗せられて、きくべきこともきくチャンスを失ってしまうのである。
- (4) 相手の話に共感しつつも、一步退いて批判的なきき手であるという立場を崩さないこと——質問は詰問でも官憲が行なう事情聴取でもない。心を開いて相手と共感し、そのゆえに相手の心をも開かせる、心の通いあいではなければならない。相手との心の通いあい、これを社会学ではラポールとよんでいる。ラポールの成立しない面接は落第である。そのような状態でいくらかのことを聴取したとしても、その事柄における当事者の心情はくみとれない。事実だけでなく、その背後にある心理をも能うかぎり洞察するのでなければ、生きた資料とはいえない。このように、相手との共感是不可欠の前提ではあるが、研究者はこの共感に溺れて批判的なきき手の立場を忘れるようであってはならない。共感をもってききつつ、相手の話が他の面接相手の話とくい違わないか、自分もつその他の知識や常識と矛盾しないか、チェックしつづけるのである。そして、チェックマークがついたところでは、追跡質問を加える。しかし、その点は間違いだということすら指摘する必要はない。ましてや、その考えは誤っていると非難したり、議論を戦わすことは控えなければならない。批判的なきき手といっても、あからさまに批判して蒙を啓くということではなく、相手の話をそのまま鵜呑みにしないで、もし間違いや矛盾があれば、なぜそのようなことをいうのかをつきとめて、理解の参考にするという意味である。こうして、批判的でありながら、しかも相手には自分の立場にたって話をきいてくれる人だと印象づけることになれば話は滑るようにでてくる。ここに共感と批判とが矛盾なく統合されるのである。

- (5) ノートは話をききながらとり、面接が終わった直後に、遅くともその日のうちに整理すること——相手の警戒心を刺激しないように、ノートは面接直後に記憶をたどってとるといふ人もある。しかし、これはよほど記憶力のすぐれている人か、比較的簡単な内容の面接の場合にしか推奨できない。また、質問しながら筆記できないといって、助手にもっぱら筆記させる人もいるが、助手をつれていくのなら、自分も助手もともにきき、かつ筆記するほうがよい。一人では重要な質問をしおとすことがあり、また自分で書いていないと質問したのかどうか忘れてしまうことが間々あるからである。テープレコーダーをかついでいって、それに助手役をさせる人もある。その場合でも、自分でメモをとっておくのが望ましい。そうでないと、始めに予定したほど速かにテープの整理ができなくて、どのテープになにが入っていたかということさえ、わからなくなってしまうからである。したがって、研究者は話をききながらノートをとり、ノートをとりながらつぎの質問を考える——ということになる。三種類の作業を並行させるわけである。話をききながら、つぎの質問を考えながらとるノートであるから、ノートの字は読みづらく文章も整わないのがふつうである。そこで、どうしてもノート整理が必要になってくる。ノート整理は面接が終わりしだい着手するのが望ましいが、もしそれができないのなら、少なくともその日のうちにしてしまわなければならない。そうでないと、書き忘れたことを書き加えることができなくなる。もっと放置しておく、せつかくのノートも読めなくなってしまうことだろう。
- (6) 何人かで協力研究をしているときには、整理のすんだ面接ノートの写しを配布すること——少なくとも、打合わせ会を開いて、面接の結果を共有の資料にするとともに、その解釈や評価についても意見の交換をしておくことが大切である。

**出典：**

森岡清美「社会学的調査」木村礎・林英夫編『地方史研究の方法』（新生社、1968年）

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2968885/160>